

島根県・ご縁を結んで賑わう出雲市大社町

～平成大遷宮と周辺の整備～

日本不動産研究所 松江支所

平井 昌子

ここ数年で訪れるたびに変化を感じるホットなまちと言えば、出雲市大社町である。全国的にも有名な出雲大社のある出雲市大社町は、以前は島根県簸川郡大社町であったが、平成17(’05)年3月に大社町と合併し、現在は出雲市の一部となっている。

出雲大社は縁結びの神として知られる大国主大神を祀る神社で、人・仕事などあらゆる良縁を願う毎年年間200万人以上が参拝に訪れる。本殿は延享元年(1744年)に造営され、昭和27(’52)年に国宝に指定されている。造営以来3度の遷宮が行われ、平成25(’13)年5月、約60年ぶりに平成の大遷宮が行われる。

遷宮とは、社殿の新築や修造を行う際に一時的に御神体や御神座を移すことだが、平たく言えば老朽化した神様のお宅の新築・修繕工事のことである。今回の遷宮では、まず初めに平成20(’08)年に大国主大神様が仮住まいにお引越されされた後、檜皮が敷き詰められた大屋根が新しい檜皮へと葺き替えられるなど着々と工事が進んだ。5年の歳月をかけた一大工事は平成25(’13)年ついに終了し、5月10日、大国主大神様が綺麗になった我が家へと戻られることになっている。



「出雲大社・御仮殿」

出雲大社で修造工事が進む一方、出雲大社周辺でも様々な開発や整備が行われている。出雲大社の東隣、徒歩5分のところには平成19(’07)年3月、島根県立古代出雲歴史博物館が開館し、出雲大社の境内から出土した巨大本殿の柱や国宝の銅剣・銅鐸を見ることが出来る。また最近では、正門鳥居の向かい側に平成24(’12)年8月末、「ご縁横丁」という名前の商業施設がオープンし、名物出雲そばなどを味わえる飲食店や山陰地方の名産品を取り扱う土産物屋が参拝客を迎える。



「平成 24(’12)年 8 月末に開業した『ご縁横丁』」

最後に一番大きく変わった「神門通り」を紹介したい。旧 J R 大社線の大社駅から出雲大社へと続く神門通りは、出雲大社への参詣道として建設され、かつては多くの参拝客で賑わっていたが、平成 2(’90)年の J R 大社線の廃止や自動車の利用増加などにより、道行く人は減り、閉店する店舗が多く見られ閑散としていた。

以前は車道部分 7m に対し、両側歩道部分が各 2.5m と車道部分が広がった通りは、歩道部分を 2.5m から 3.5m へ広げ、反対に車道部分は 5m に狭められ、自動車はスピードを出しにくく、歩行者が安心して歩ける通りへと道路改良が進められている。また電線類の地中化工事も行われ、すっきりと整備された通り沿いには新しい店が開き始め、賑わいを取り戻してきている。

平成 25(’13)年は大遷宮も行われる特別な年である。是非多くの人が神門通りを訪れ、沢山のご縁を結んでもらいたい。



「賑わいを取り戻してきた『神門通り』」